

学位論文審査結果の要旨

学位申請者 氏 名	Tran Quoc Nhan
審査委員	主査 鹿児島大学 教授 豊 智行
	副査 鹿児島大学 准教授 李 哉法
	副査 佐賀大学 准教授 辻 一成
	副査 佐賀大学 教授 稲岡 司
	副査 鹿児島大学 准教授 坂井 教郎
審査協力者	印
題 目	ベトナムメコンデルタにおける米生産への契約農業と農家規模の 効果に関する経済研究 (Economic Study of the Contract Farming and Effects of Farm Size on Rice Production in the Mekong Delta, Vietnam)
<p>ベトナムは1989年以前には米の純輸入国であったが、最近では世界有数の米輸出国の一つになっている。メコンデルタはこの成果に著しく貢献し、全国における稲耕作面積の約55%、米の生産量と輸出量のそれぞれ56%以上と90%以上を占めている。しかし、メコンデルタ稲作農家の大多数(65%)は比較的小規模な水田面積(1ha以下)を所有している。小規模で販売先との価格、量、品質の垂直的調整がなされないまま、稲作農家の90%以上が収穫直後に農家庭先でスポット的に仲買人に販売している。このことは、農家に対する不安定な収入と米の不安定な品質の原因を招いているといわれている。この問題を解消するためのベトナム政府の主要な施策の一つとして、農業、特に稲作部門での契約農業が2002年以降に推進されている。しかしながら、小規模な耕地を有する農家は稲作から生計を立てることが可能か、契約農業はメコンデルタの稲作農家に高い収益性をもたらすことが可能か、農家による稲作契約農業の導入にはいかなる要因が影響するのか、という根本的な疑問が提起される。</p>	

そこで本研究は、農家規模別の稲作収益性の検証、稲作契約農業の実態と履行制約の把握、稲作農家の契約農業の導入に影響を及ぼす動機付け要因とその収益性の解明を行った。データ収集のための農家世帯調査は、メコンデルタで2015年9月から2017年9月までに実施した。主要な結果は次の通りである。

第一は、小規模（1haまでの稲作）、中規模（1～3ha）、大規模（3ha以上の稲作）の三グループにおける生産は利益をもたらすが、小規模農家の利益は大規模と中規模と比較すると少なく僅かであり、このままでは小規模農家は長期間に及んで生計を維持することにおそらくもがき続けなければならない。三グループで生産の平均費用（1kg当たり生産費用）に差はないが、1kg当たり米販売価格は大規模において中・小規模に比べて顕著に高い。このことはメコンデルタの農家の高い米生産所得の源泉は規模の経済の発現ではなく、米の高い販売価格であることを意味する。米の高価格化には農家規模に加えて、貯蔵施設を所有していることと収穫後に販売することも影響している。

第二は、メコンデルタでは稲作契約農業の不履行が多いことである。米価格への不同意、米品質の測定への不信、収穫時における契約企業の低い集荷可能量と膨大な収穫量の不均衡が契約履行の大きな制約である。しかし、契約書や企業と農家間の直接契約の採用は契約履行にプラスの効果をもたらし、契約農家への先行投資は契約履行を強化する可能性がある。

第三は、農家が契約を選択する三つの動機には、より良い販売先へのアクセスを望んでいること、契約先からの支援による便益を得られること、生産の向上が期待できることがあり、また、契約農業は、販売価格・生産費マージンと販売価格の点で稲作の収益性にプラスの影響を与える。

本研究の成果は、メコンデルタにおける収益性が低迷する小規模稲作農家の所得増大へ向けた方策、契約農業による稲作農家の所得増大への有効性、現状では契約を結んでも不履行となる確率の高い契約農業を履行させるための契約の在り方を示しており、メコンデルタにおける稲作農業の発展と国内外の市場に供給される米の品質向上へ貢献するものである。

以上より本論文は博士の学位論文(農学)として十分な価値を有するものと判断した。